自然の中で　ＧＯ　ＧＯ　ＧＯ

熊野町立熊野第一小学校　　対象学年（５年）
体験活動の種類　　自然
体験活動場所・宿泊場所　国立江田島青少年交流の家

【学校紹介】

○　熊野町は広島市，呉市，東広島市に三方を囲まれた賀茂台地の西端に位置し，全国的にも有名な「熊野筆」の産地である。町の人口は２万５千人で，町内には熊野川や城山などの自然が色濃く残るが，児童は盆地部の住宅地を中心に居住しており，自然体験がそれほど豊かとは言えない。また，子どもらしい素直さがある反面，地域行事への関心や学校や社会のルールを守る意識，自己有用感等が低く，話すことや聞くことに苦手意識をもっている児童が少なくない。校内の研究では，「思考力・表現力を高める算数授業の創造」を主題に，納得・実感できる授業づくりに取り組んでいる。

１年生の書写の授業

○ 校長名：奥　金 実
○ 児童数（学級数）：５０４名（１９学級）
○ 所在地：安芸郡熊野町中溝四丁目４番１号
○ 電話番号：０８２－８５４－０１１１
○ ＵＲＬ：kuma01es@piano.ocn.ne.jp

【体験活動のねらい】

○　自然体験活動に主体的に関わることを通して，自己有用感を育てる。
○　友だちとの協働を通して，主体的に行動することや，規範意識を育てる。
○　自分や友だちのよさを感じ取らせ，家族への感謝を深めさせる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
４月	「伝え合おう，５年生でがんばりたいこと」 学習したことを聞き手に伝わるように，話の組み立てを工夫し，理由や例を挙げて話す。	3	国語科	教室	担任

５月～７月	テーマの設定 活動内容の設定 ・　係活動 ・　班活動 ・　野外炊飯の事前学習 ・　瀬戸内海に関する事前学習	１０	総合的な学習の時間	学校	担任
７月	「かれてしまったヒマワリ」【４－３】 　自分の役割を自覚し，主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。	１	道徳	学校	担任 ＴＴ（生徒指導主事）
７月	「一ふみ十年」【３－２】 　自然の偉大さを理解し，自然を愛護する態度を育てる。	１	道徳	学校	担任 ＴＴ（生徒指導主事）
７月～９月	「次への一歩　活動報告書」 　宿泊体験学習で学んだことを，聞き手にはっきり伝えるために話の組み立てを工夫して話す。	１０	国語科	学校	担任
７月	野外活動（３泊４日） ・　入所式 ・　野外炊飯 ・　散策 ・　ナイトウォーク ・　カッター訓練 ・　スタンツ練習 ・　キャンプファイヤー ・　水泳 ・　海浜清掃ボランティア ・　海辺の生きもの観察 ・　野外炊飯 ・　家族への手紙 ・　カヌー研修 ・　退所式	２４	特別活動 (学校行事)	国立江田島青少年交流の家	全教職員 施設関係者 大柿自然環境体験学習交流館職員
９月	「相手や目的を考えて」 　適切な言葉を使い，必要な事柄を整理して礼状を書く。	４	国語科	学校	担任
９月～３月	事後学習 ・　学んだことを作文や新聞，絵画などにまとめる。 ・　学習のまとめをする。	１５	総合的な学習の時間	学校	担任
１１月	「ケヤキの木の下で」【３－３】 　人間の優しい心や美しい行為に気づき，素直に感動する心を育てる。	１	道徳	学校	担任
１１月	成果発表 　児童，保護者，地域の人に，体験活動の報告をするとともに，感じたことや考えたことを発表する。	２	総合的な学習の時間	学校	担任

３月	発展学習 ・　海洋技術センターと牡蠣養殖の見学 ・　豊かな広島湾 出前講座（広島大学）	7	学級活動 社会科 総合的な学習の時間	海洋技術センター 山岡水産 学校	担任 海技センター職員 山岡水産 広島大学 海野准教授

【体験活動の概要】

○　野外炊飯

献立の企画段階から，児童に材料や調理手順を調べさせ，保護者の協力のもと，家庭でも包丁を使った調理を行うなどの事前学習を行った。宿泊学習では各調理班に教師がついたが，調理開始から３０分間は口をはさまないことを確認した。また，宿泊学習中に２回の野外炊飯を実施したが，これは１度目の失敗を２回目で生かすことができることを期待したものである。その期待通り，どの班も２回目の野外炊飯では手際よく協力しながら作業を進めることができ，児童も満足気で自己有用感も高まったと推察する。

○　カッター訓練

児童に厳しさを求めた青少年交流の家の指導者のもと，日常ではあまり経験できない緊張感をもった“訓練”を行うことができた。始めは，櫂を持つこともおぼつかなかったが，仲間を意識し，力とタイミングを合わせ自分たちが漕がなければ艇は進まないので，連帯感をもった真剣さの中で“訓練”を行うことができた。

○　海岸清掃ボランティア

自分たちが活動を行った青少年交流の家の浜を清掃するボランティア活動を行った。少し奥まった湾になっているためか，思ったよりもゴミは多くなかったが，児童は自分たちが活動した砂浜を進んで清掃し，青少年交流の家の職員から感謝の言葉をいただき，充足感をもつことができた。

【体験活動の効果を高める事後学習】

○ 総合的な学習の時間

学習のまとめとして，学習したことを作文や新聞，絵にまとめた。この学習を通して，児童は自分が学んだことや感じたこと，考えたことを改めて整理し，表現することができた。

ドキドキのカッター研修

・・・〈略〉・・・

最後にあとひと息というところで、みんなつかれて三回くらいこがないと海岸に着きませんでした。私は、近いようで遠いなと思いました。

一人一人、自分の個性を出し合いながら、みんなの気持ちが合わさると、大きな一つの力になるということが分かり、とっても気持ちがいいなと思いました。 その中で、私はどんな力を出していたのかな、と思いました。

私は野外活動で、「みんなの力を一つに合わせること」「みんなの心を一つに合わせること」という二つのことを学びました。みんなで一つの体験をしたことが、人の心を変えて、大切なことを教えてくれました。

・・・〈略〉・・・

【交流先や施設等との連携】

○ 事前に電話やメールを使い，体験活動のねらいや趣旨などを施設側に伝え，活動内容を選定した。

○ 施設の実際の様子を知ることと，実際の活動を想定するために，管理職１名と第５学年の全担任が江田島青少年交流の家を訪問し，施設や児童が活動する場を確認した。

○ 児童のアレルギーに係る食事内容や保健室の準備，現地での医療機関等の確認を行った。

【評価の工夫】

○ 設定した自分の活動目標に照らして，児童が体験活動を振り返るために，「野外活動のしおり」に振り返りシートを設けた。そして単に活動の振り返りのみではなく，自分が活動を通して「学習したこと・わかったこと・心に残ったこと・感じたこと・考えたこと」を書くようにさせた。

○ 宿泊体験活動の実施は夏期休業中なので，事後に教師が振り返りシートに評価（返事）を書くと，児童が読むのは２学期にならざるを得ない。そこで，機を逸せず次の活動に活きる形成的評価とするために，担任は児童が就寝した後，児童一人一人の振り返りシートにその日の活動の評価（返事）を書き，翌朝一番に児童に返却した。児童は担任の励ましや助言を読み，さらに活動に積極的に関わる意欲を高めた。

【安全面の配慮事項】

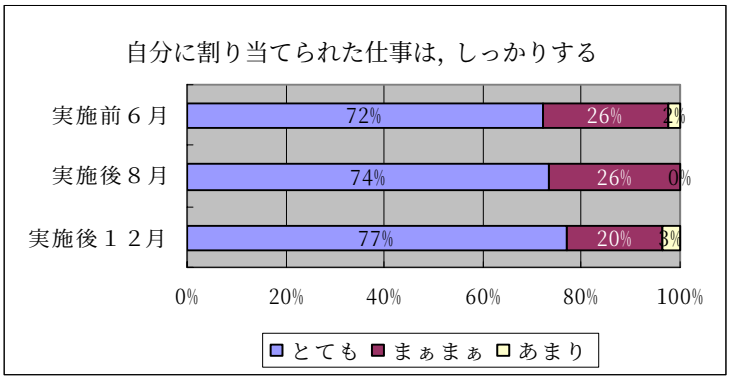
○ メール一斉配信による保護者連絡網の整備を進めるとともに，児童の健康面の調査を事前に行った。また，野外活動期間中に薬を服用する児童も少なくなかったが，該当児童については保護者と事前に連携をとり，薬は養護教諭が預かり，服用に立ち合った。

○ 野外活動期間中には，毎朝と毎夕に「健康観察」の時間を設けるとともに，炎天下で実施するカッター研修や水泳の前には，養護教諭による健康チェックを実施した。

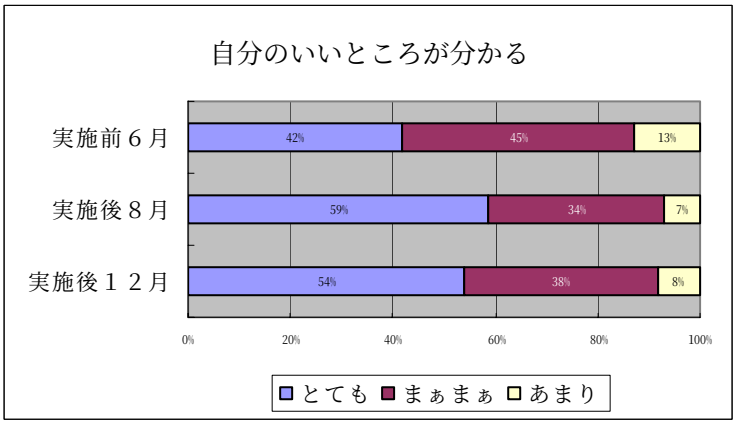
【体験活動の成果と課題】

〈成果〉

○　同じ活動（野外炊飯）を２回行ったことで，児童は１回目の経験や失敗を２回目に活かすことができた。そこでは共通の目的のために児童が班の仲間と話し合ったり，役割を確認したり，協力したりすることができていた。この姿は野外活動の活動全般でよく見られ，児童は自分の仕事以外にも進んでよく取り組んでいた。アンケートでは，実施の前後比較では「自分の仕事をしっかりする」ことに対して，肯定的な意識をもつ児童が増え，実施から５ヶ月後でも高い評価が継続できている。これは，学級の係り活動や，高学年の自覚を高める指導を継続的に行ったことが影響していると考えられる。



○　広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童意識アンケートの自己有用感を問うアンケートでは，肯定的評価を持つ児童は６７．４％で，県平均７３．８％よりも６．４ポイント低い実態があった。しかし，仲間とともに試行錯誤の中から成功体験を積むことができた野外活動実施の前後のアンケートでは，児童の自己有用感が向上したことがわかる。また，この児童の認識は，実施から５ヶ月後でも高い評価が継続できている。これは，その後の学校生活で，折にふれ野外活動のことが話題になったり，日々の振り返りを記入する用紙に自分の頑張りや友だちの良かったところを書く活動を続けたりしていることが影響していると考えられる。



〈課題〉

○　１２月実施の保護者アンケートでは，「体験活動を通して子どもが成長したと思う」という項目に，８９．７％の保護者が肯定的な評価をしたが，自由記述の中には「体験前後であまり変わっていないような気がします。」などの記述もあり，今後，体験活動の成果をどう児童の日常に反映させていくのか，保護者との連携も図りながら考えていきたい。

○　三日目に実施した「海辺の生きもの観察」は，干潮の時間帯との関係で、午後すぐに実施する必要があり，その前後の活動時間が少なくなった。また，講師を招聘したが，児童全員が講師の説明を聞きながら広い浜辺を移動することはたいへん困難だった。講師や学生ボランティアの人数を増やしたりするなど検討する必要がある。